

みなさん、おはようございます。

暑い夏から秋、冬へと長丁場の2学期でしたが、本日無事に終業式を迎えられたこと嬉しく思っております。

この2学期は多くの学校行事があり、西高生の活躍する姿をたくさん見ることができました。9月の学校祭では、クラスごとにステージでの発表や展示を行った文化祭、5つの団が競技や応援発表で競い合った体育祭、どちらも、皆さんの笑顔、その笑顔にたどり着くまでの苦労、込められた思いを感じ取ることができました。学校祭のアンケートで、感謝の言葉が多く寄せられていたのも、西高生の素晴らしいところだと感じました。

また、すべてを紹介することはできませんが、京都北都信用金庫と合同の西舞鶴駅周辺の清掃、新世界商店街でのハロウィンイベント、西舞鶴駅前で開催された「駅前ひろばフェス」など、地域からの要請を受けての取組が多く行われたことは、西舞鶴高校に対する地域からの期待の表れではないかと感じております。

12月2日からの3日間、オーストラリアのBalmoral State High School から21名の留学生を受け入れ、授業や文化体験、ホームステイなどで西高生との交流が行われました。こういった留学生の受け入れは、西舞鶴高校としては久しぶりでしたが、私の想像以上に活発な交流がなされ、大変喜んでおります。これを機に留学や国際関係学などに興味を持つようになった西高生もたくさんいると思います。

2年生の研修旅行では民泊を通じて沖縄文化を学び、ひめゆりの塔や平和祈念資料館を訪問することで平和について考え、仲間との交流を深めることができたと思います。訪問先の方々など、研修旅行でお世話になった関係者の皆さんは口々に西高生の態度を褒めてくださいました。

さて、令和7年も残りわずかとなりましたが、皆さんにとってどのような1年でしたか。巳年である令和7年は、蛇が脱皮を繰り返して成長していくさまから、復活再生と成長の年と言われました。1年生は西舞鶴高校への入学の節目を迎え、2年生は先輩としての振る舞いが求められ、3年生にとって自分の進路に向き合う年であり、失敗からの学び、そこからの積み上げにより成長できた1年であったことを信じております。

この秋、大阪大学の坂口志文特別栄誉教授、京都大学の北川進特別教授の2人の日本人がノーベル賞を受賞しました。日本人の同時受賞は10年ぶりの快挙とのことです。北川教授が若者に向けた次のようなメッセージがあります。

「知的好奇心を持ち、面白いと思ったことをやることだ。役に立つと思われていなくても、違う視点ならどうかと、諦めることなくチャレンジしてほしい。」

この言葉のとおり、「知的好奇心」こそが学びの原動力だと思います。これは、高校生としての学びだけではなく、進学後や社会に出てからの学びでも大切にしてほしいことです。多くの高校で取り組んでいる探究的な学びは、知識を詰め込むのではなく、思考する力を育みます。自分が面白いと思えることを深く追究し、考え抜く姿勢を大切にしてください。

さて、3年生のみなさんへ。すでに希望進路の合格を果たしたみなさん、本当におめでとう。卒業までの時間をどう過ごし、どんな力を身に付けるか、ぜひ考えてみてください。これから大学入学共通テストや一般入試に向かうみなさん、最後まで粘り強く頑張りましょう。学力を伸ばすことも、ミスを減らすこともまだまだ可能です。目標に向かって集中力を高め、悔いを残さないよう受験にしてください。

1・2年生のみなさんは、先輩たちの姿をよく見て、先輩からたくさん話を聞き、自分の希望進路の実現に向けて、参考にしてほしいと思います。ライバルより先を行くために、誰にでもできることは、早くスタートを切ることです。

この冬休みの期間、健康に留意し、交通安全を心がけて、来る年を、みんなが新たな決意で迎えられることを願って式辞とします。

令和7年12月19日 京都府立西舞鶴高等学校 校長 田邊仁司